

2011年1月13日

報告者：三浦直樹

石器製作三次元動作解析実験 実験報告

日時：2011年1月8・9日

場所：高知工科大学

実験者：

長井謙治（国士舘大学・A01 研究協力者）

星野孝総（高知工科大学・外部共同研究者として協力いただいた）

三浦直樹（高知工科大学・C02 研究分担者）

概要：

本実験では、A01 研究班と C02 研究班の共同実験として、石器製作熟練者（長井）が反復ルヴァロア技法を用いて石器を制作する際の一連の身体動作を、3次元モーションキャプチャ装置（Phoenix Technologies 社、Visualeyez VZ4000）を用いて計測を行った。両腕を中心に19点の測定点を配置して動作を計測し、ビデオ映像等の同時に記録した行動情報を用いて運動情報の解析を行う。同一のデータから行う実験考古学的解析結果と照合する事により、熟練が表象される動作の抽出や加工に必要な力の推定等が可能になると考えられる。



図1. 実験風景。実験者（長井）を取り囲むように設置されているのが、今回用いたモーションキャプチャ装置である。

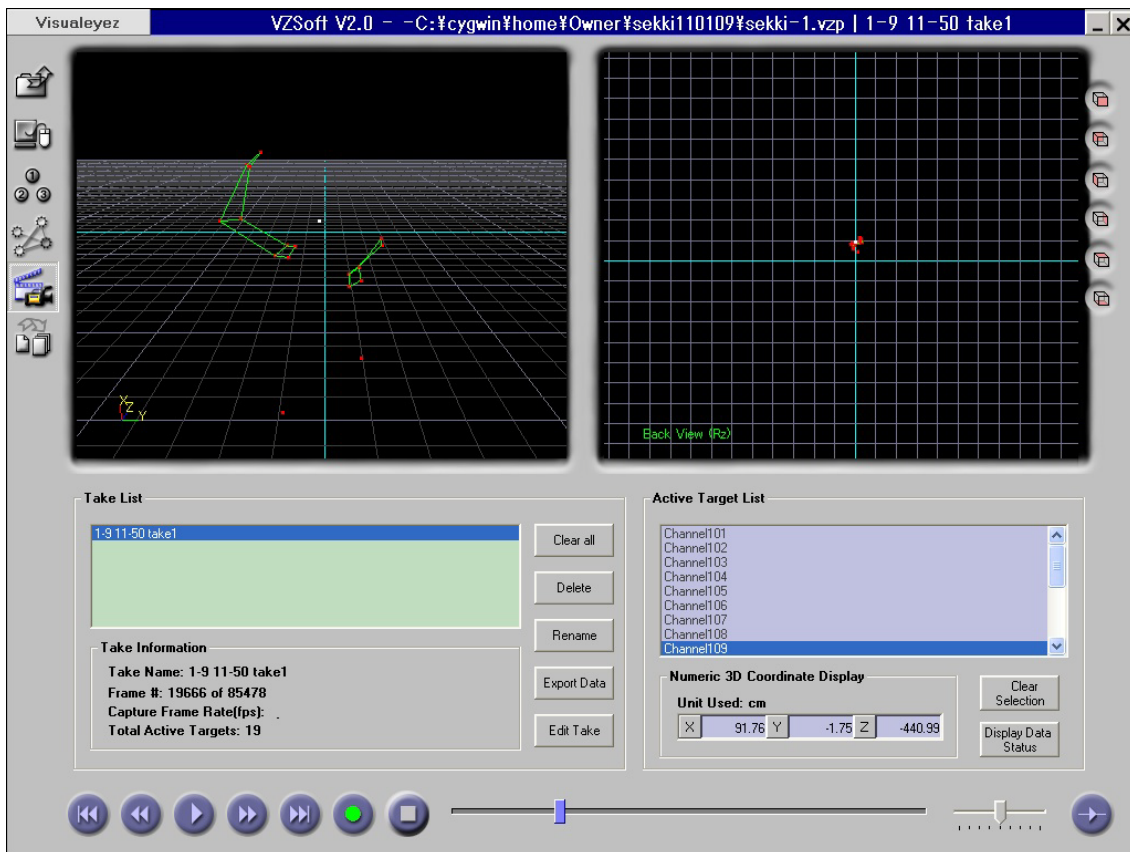


図2. 計測用ソフトウェアの画面。画面左上に、計測したデータを3次元空間上で再構築し正面方向から表示した映像が表示されている。赤点は測定点、緑線は両腕上の測定点同士の位置関係を仮想的に接続するための接続線である。